

第 54 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	上島ゼミ	チーム名	わっしょいうえしま
タイトル	外国人労働者問題		
テーマ群	g) その他		
メンバー	岩田あこ、沖本葉月、河合新、小山和眞、鼻本悠剛		
研究計画内容	<p>【研究背景】</p> <p>少子高齢化社会により人手不足が顕在化する中で、外国人労働者の活用が期待されている。外国人労働者の数は、2012 年の 68 万人から 2023 年には、205 万人に達した。外国人労働者の受け入れは労働力の確保や、外国市場へのアクセスになる一方、劣悪な労働条件、人権侵害やコミュニケーションの齟齬、文化的な摩擦などの問題が存在する。</p> <p>2018 年の入管法改正で在留資格として「特定技能」資格を創設し、正面から外国人労働者の受け入れを開始した。2024 年 6 月の改正では「技能実習」を廃止し、「育成就労」を新設する。「育成就労」資格で働くと最長 2 年で転職が可能になる。そのため、不足する産業や地方から流出して、意図した人手不足の解消は実現されないかもしれない。円安がすすみ、台湾と韓国が外国人労働者の受け入れを拡大させるなかで、日本が戦力となる人材を確保できるかは不透明である。この研究では、どのような受け入れ政策をとれば外国人労働者にとって魅力的で働きやすい環境が実現し、日本経済社会に真にプラスの効果をもたらすのかを考える。</p> <p>【研究内容】</p> <p>独自の研究として、外国人労働者にインタビューを行い、なぜ日本を選んだのか、在留資格の条件および労働条件に満足しているか、修得した技能をどう生かすのかを尋ねる。また、彼らを雇用する企業に対しても、活用のメリットと課題を伺いたい。さらに諸外国の政策とその経験を調査して、日本人と外国人が win-win となるような政策を提案する。</p> <p>【期待される効果】</p> <p>外国人労働者は日本の経済成長を支える一方で、長く等閑視されてきた。彼らの置かれた現実と課題を追求することにより、これからの外国人受け入れ体制のあるべき姿を提起する。そして、今後の政策などについて考えるきっかけになることが期待される。</p> <p>【参考文献】</p> <p>宮島 喬 鈴木 江理子(2019)「外国人労働者受け入れを問う」岩波書店 守屋 貴司(2018)「外国人労働者の就労問題と改善策」日本労働研究雑誌 https://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2018/07/pdf/030-039.pdf (参照 2024-10-22)</p> <p>厚生労働省 「外国人労働者をめぐる現状と課題」(参照 2024-10-22) https://jsite.mhlw.go.jp/saga-roudoukyoku/content/contents/001031861.pdf</p>		